

式 辞

赤城の山や校庭の木々に春のいぶきを感じる本日、ご来賓の皆様、保護者の皆様をお迎えし、第二回卒業証書授与式を厳粛に挙げてまいりましたことを、心より感謝申し上げます。

全日制課程三百九十五名、通信制課程三十三名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。皆さんが所定の課程を修了し、本校を卒業することはこの上ない喜びです。

卒業にあたり、はなむけとして二つお話しします。一つは「自己を受け入れ、成長すること」、もう一つは「違いを乗り越え団結すること」です。二つまとめてお話しします。

コロナ禍での高校生活は卒業生に共通したものでした。しかし、「卒業」までの道りは多様だったことでしょう。入学以来、充実した日々を過ごした人、苦勞しながら卒業を勝ち取った人、様々だと思います。

我々は、現に存在している多様なものをまとめる能力をもっています。顔や身体、価値観など様々な違いがあるのに、「人」として一括りにするわけです。現実にある具体的な違いを見ないようにして、頭の中で抽象化することを、我々は無意識に行っています。この具体と抽象の均衡が大切だと考えます。

世の中には「ギフトッド」といわれる人がいます。学問、スポーツ、芸術など、ある領域において、ずば抜けた能力をもつ人たちで、羨望の眼差しを向けられ、もてはやされることもあります。並はずれていることは、同時に「標準」からはずれていることでもあるわけです。それ故に、社会とのズレが生じやすく、生きづらさを抱えることもあると聞きます。「標準」から見れば、とても恵まれていると思う人でも、そうとは限らないようなのです。

「人」はそれぞれ違います。違いを当然だと受け入れることから始めてみましょう。並はずれていれば「標準」とのズレに苦しみ、「標準」であればうまくできないことに悩むということもあります。例えば「他人と同じことをやっているのに自分は遅い」と感じたら、遅い自分を受け入れ、前に進みましょう。イソップ物語の「ライオンとネズミ」の話のように、あなたの遅さが他人の役に立つ時は必ず訪れるものです。

次に、変えられる部分を見つけて、変える努力をしましょう。身体の各部位に見られるように人は変化する存在です。また周囲の人間関係も必ず変化します。あなたを変えるチャンスはきっとあるはずです。では、どうしたら見つけられるのでしょうか。正解があるわけではありません。頭の中であれこれ考えるだけでなく、実際に行動することが重要です。試行錯誤の過程を経て、気が付いたら「変わった」と実感できると思います。

多様な人たちが、違いを超越し団結する、助け合う、こうした機会は貴重です。そもそも思考がピッタリ同じという人はいません。違いを超越するためにはどうすべきでしょうか。大切なのは、違いにこだわるより共通する要素を見つけ、折り合うこと、歩み寄ることだと考えます。

全日制課程の皆さんは、旧桐高・旧桐女入学生としては最後の卒業生となりました。通信制課程の皆さんを含めて、新生桐生高校の生徒として、新たな学校づくりに参画する貴重な経験をしました。その過程で、新たな出会いがあり、折り合いをつける経験したことと思います。これからも数多くある出会いを通じて、変えられる部分を変え、歩み寄り、団結し、支えあう仲間をつくってください。

卒業生の保護者の皆様、お子様のご卒業を心よりお祝い申し上げます。今、脳裏に浮かぶのは、どんなことでしょうか。抱っこされながら眠りにつくお子様の姿でしょうか。自転車に初めて乗れた時のうれしそうな笑顔でしょうか。大きなランドセルを背負った緊張した姿でしょうか。大きく立派に成長されました。これまでのご苦労に敬意を表します。また、三年間、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましたこと、感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちの時です。大人への階段を一つ昇り羽ばたいてください。世界は今思っているより広いものです。あなたを理解してくれる存在、助けてくれる人がどこかで待っています。

結びに、卒業生の皆さんが末永く幸多き人生を送られることを願って式辞といたします。

令和五年三月一日
群馬県立桐生高等学校
校長 高橋 浩昭